

第3回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会

平成 27 年 9 月 3 日（木）
午前 10 時から 12 時まで
特別第一会議室（別館 9 階）

次 第

1 開会

（1）知事挨拶

2 議事

（1）意見交換

社会総がかりの教育に向けた地域の人材の活用（人材バンク）

（2）意見交換

新しい実学の奨励

（3）その他

3 閉会

<配布資料>

資料1 新しい人材バンクの実施体制（修正案）

資料2 新しい実学の奨励に関するこれまでの検討経過及び実践委員会
における論点

資料3 日本の学校系統図

資料4 新しい実学に関する学科の設置状況

資料5 専修学校の設置状況

資料6 新しい実学の奨励等に関する県の計画における位置付け

資料7 新しい実学の奨励に関するこれまでの取組

資料8 地域学に関する取組

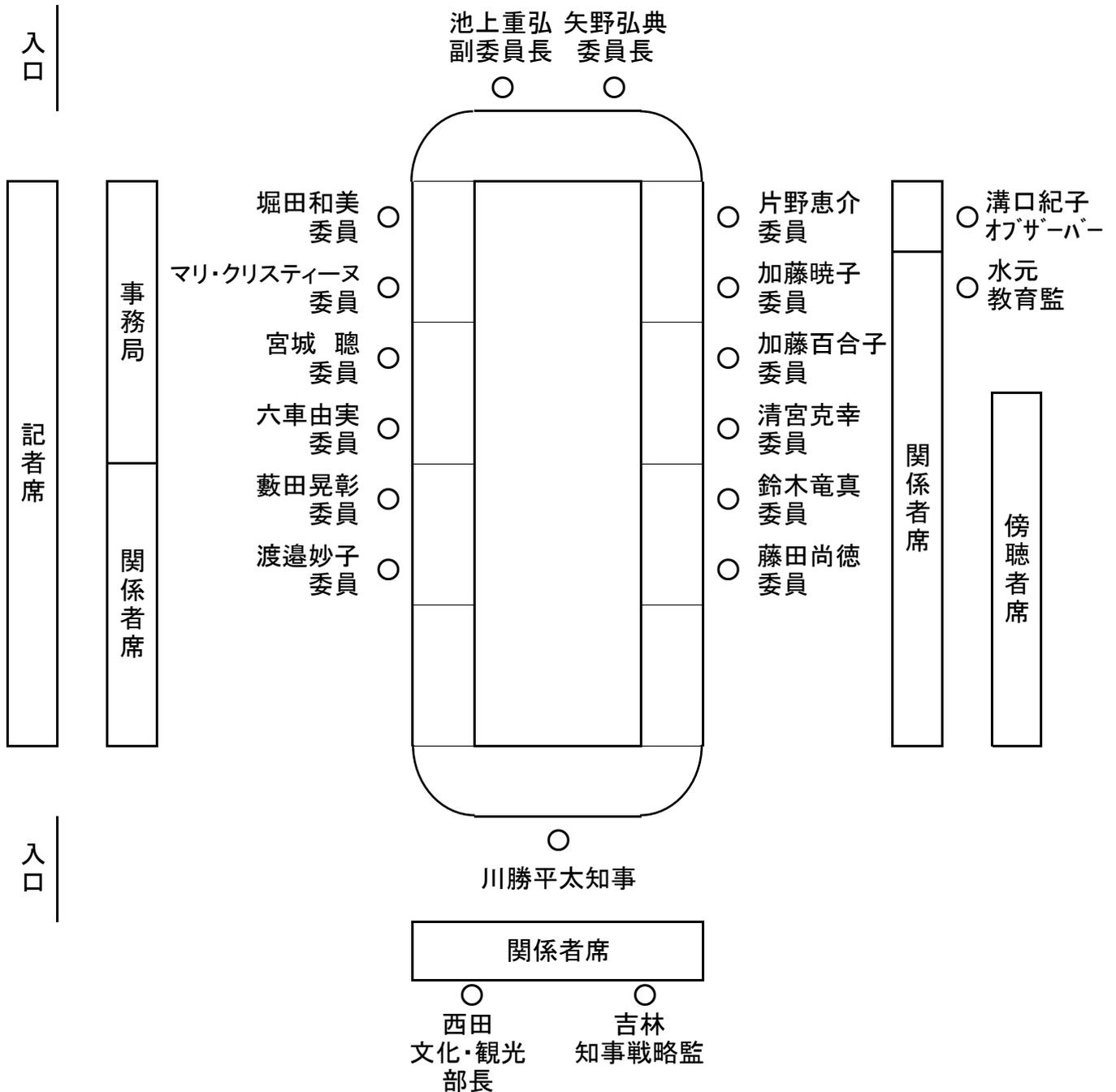
資料9 「実学」の基盤となる小中学校における地域学習について

- （参考資料）
- ・高校と大学の連携・接続のあり方検討委員会～創造性を育むために～ 最終報告書
 - ・静岡県産業教育審議会 答申
 - ・学校教育法等の一部を改正する法律の概要

第3回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会 座席表

日時 平成27年9月3日(木)10:00～

場所 別館9階特別第一会議室



地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会委員一覧

(委員長、以下 50 音順、敬称略)

氏 名	役 職
矢野 弘典 (委員長)	(一社) ふじのくにづくり支援センター理事長
池上 重弘 (副委員長)	静岡文化芸術大学文化政策学部教授
奥島 孝康	(公財) ボーイスカウト日本連盟理事長
片野 恵介	青年農業士
加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾専務理事、事務局長
加藤 百合子	農業シンクタンク「エムスクエア・ラボ」代表
清宮 克幸	ラグビートップリーグヤマハ発動機ジュビロ監督
後藤 康雄	(一社) 静岡県商工会議所連合会会長
鈴木 竜真	ふじのくにづくり学生研究会
仲道 郁代	ピアニスト、桐朋学園大学音楽学部教授
藤田 尚徳	株式会社なすび専務取締役
堀田 和美	飛龍高等学校校長
マリ クリスティーヌ	異文化コミュニケーター
宮城 聡	(公財) 静岡県舞台芸術センター芸術総監督
六車 由実	ユニット・デイサービス「すまいるほーむ」管理者
藪田 晃彰	日光水産株式会社代表取締役
渡邊 妙子	(公財) 佐野美術館館長

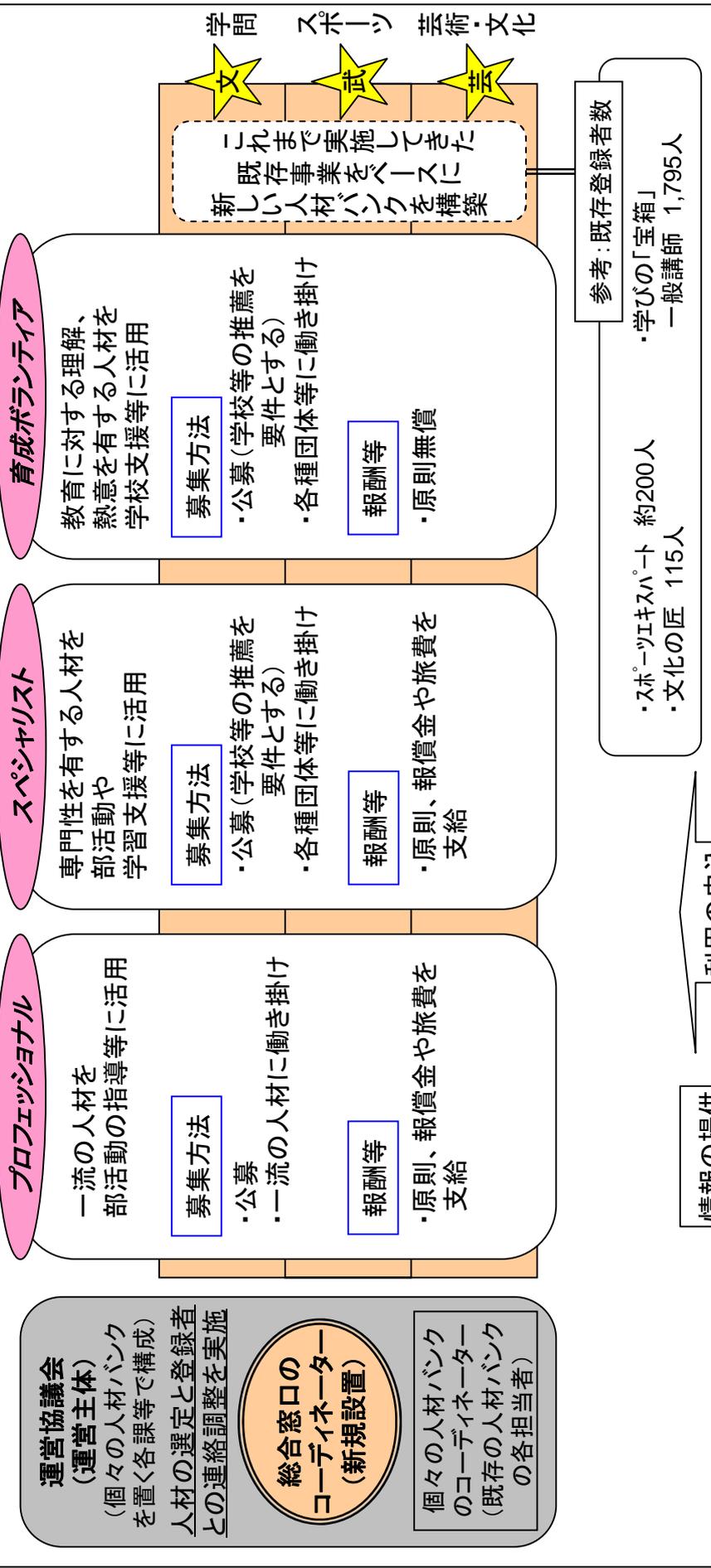
(オブザーバー)

溝口 紀子	静岡文化芸術大学文化政策学部准教授
-------	-------------------

新しい人材バンクの実施体制(修正案)

ふじのくに「有徳の人」育成バンク(仮称)

【目的】 地域人材の有効活用により、社会総がかりで、学校及び部活動並びに社会教育活動の多様化と充実を図る。



〇制度化に向けての課題

- ・企業からどのように協力を得るか(人材の供給、寄附等)
- ・人材の認定制度等を設けるか
- ・ボランティア活動の範囲をどうするか
- ・人材の研修等を実施するか
- ・事故等があった際にどのように対応するか
- ・市町の事業とどのように連携するか

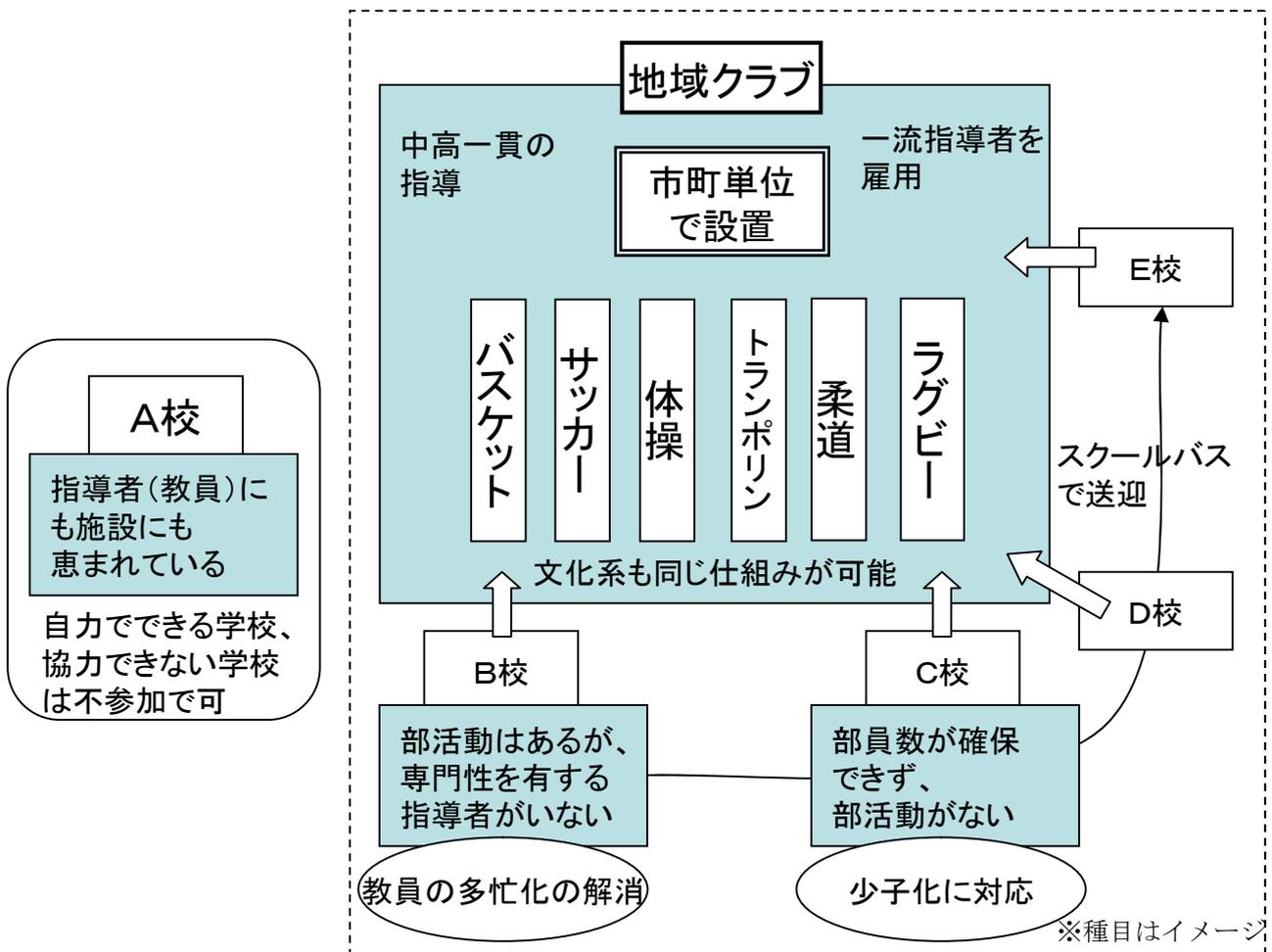
地域で部活動を支援するスポーツクラブの設立

1 提案内容

市・プロスポーツクラブ・大学等と連携して、地域で青少年を支援する「地域のスポーツクラブ」を立ち上げる。

2 イメージ図

B校、C校のような学校で、やる気はあるが、環境(指導者、部活動)が整っていない生徒にスポーツをする場を提供する仕組みを設ける。



3 制度化に向けた取組

- ・モデルケースとして、プロスポーツクラブや大学等を地域に抱え、スポーツを核とした街づくりを推進する磐田市でスタートする。
- ・その後、磐田市における成果等を踏まえ、他市町にも拡大する。

新しい実学の奨励に関するこれまでの検討経過及び実践委員会における論点

1 検討経過

平成25年度 県が「高校と大学の連携・接続のあり方検討委員会～創造性を育むために～」(以下「検討委員会」という。)を設置し、後期中等教育と高等教育との連携及び接続のあり方や専門教育の充実、新しい実学の奨励等について検討

平成26年4月22日 検討委員会が最終報告書を知事に提出

【最終報告書の概要】

農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツの分野において若者の資質や才能を伸ばすことのできる、実践的な学問としての「新しい実学」を奨励する。

(考え方)

偏差値や主要5教科に偏った画一的な教育により、個人の多様な強みを引き出すという視点が不足している現状に対応するため、新しい実学の分野で能力を発揮する若者を社会的に評価し、個々の能力や適性に応じた多様な進路を選択できるような環境を整える。

(具体的取組案)

①専門高校等の更なる充実及び周辺環境の整備

○職業人として求められる知識・技術等の高度化・複雑化への対応

○大学や企業、地域等との連携の促進

○専門高校等に対する理解促進

・中学生や保護者に対するPRの推進

・啓発活動の実施、知事褒賞制度の拡充 等

②芸術・スポーツ等を奨励していくための環境整備

平成26年8月1日 検討委員会の報告を受け、県教育委員会が「専門高校等における新しい実学の奨励の在り方について」静岡県産業教育審議会に諮問

平成27年8月21日 静岡県産業教育審議会が、諮問事項の審議結果を県教育委員会に答申

【答申の概要】

○専門的職業人の育成 学力の確保・向上、キャリア教育の推進

○産業社会の担い手育成 高度化への対応、グローバル化への対応

○専門高校等の理解促進 学科改善、施設・設備の整備、理解促進(専門教育の魅力体现機会拡大)

○教員の確保・研修の充実 大学生等への専門教育魅力発信、技術革新等に対応した指導力の育成 等

○専門学科等における具体的方策(農業、水産、工業、商業、家庭、福祉、芸術、スポーツ)

2 実践委員会における論点

【「新しい実学」の定義】（平成26年度検討委員会最終報告書より）

農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツの分野において若者の資質や才能を伸ばすことのできる、実践的な学問

①地域学を基盤とし地域等と連携した「新しい実学」を充実させるための方策

小中高校の各段階で地域に関する学びを推進するために、学校と地域等が、どのように連携していくことが必要か。

- ・「新しい実学」は、本県産業の未来を担う人材を育成する上で、重要なものであり、「新しい実学」そのものが、産業や地域資源等、本県の特徴を活かしたものである必要がある（地域学を基盤とした実学）。
- ・高校以降で、地域学を基盤とした「新しい実学」を学ぶ前に、あらかじめ本県の産業、歴史、文化等をよく理解していることが重要。

②「新しい実学」に対する社会的評価を向上させるための方策

専門高校等の教育内容、教育環境の充実については、静岡県産業教育審議会からの答申を受け、県教育委員会を中心に各学校が取り組んでいくこととなるが、この取組を、大学、企業、家庭、地域等、社会総がかりでどのように支えていくか。

- ・農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツの教育を担う専門高校等の充実を図るためには、大学や企業等が、専門高校等の教育内容や活動内容、専門高校等で学ぶ生徒を評価し、大学入試や就職時に専門高校等の卒業者を積極的に受け入れることが必要。
- ・中学校における進路指導の在り方を見直すことや、保護者の理解を深めるための取組も必要。

③「新しい実学」に関する教育体系を更に充実させるための方策

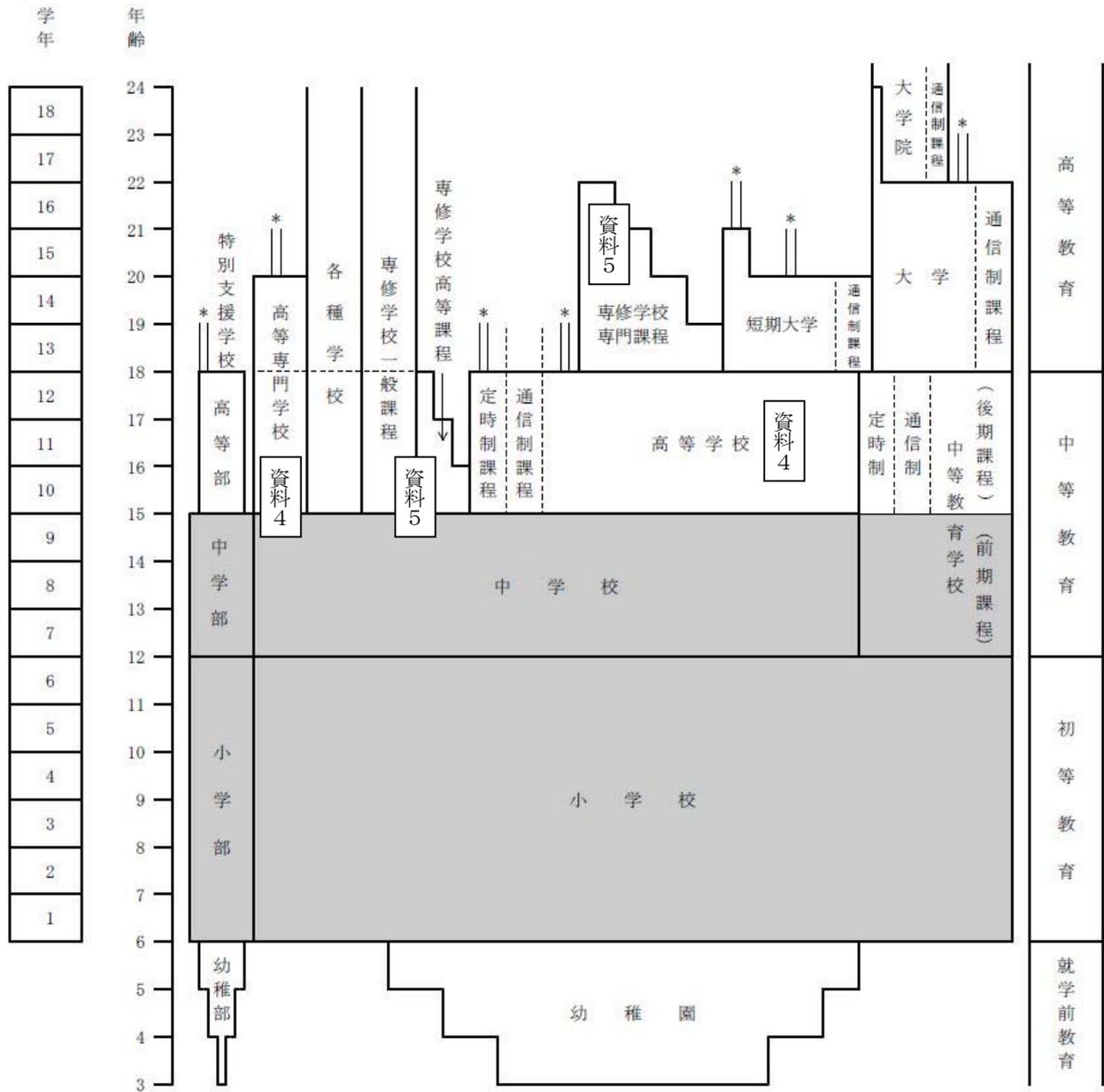
教育体系の中で、「新しい実学」を学ぶ場をどのように充実させていくか。

また、「新しい実学」に関する学校等と企業を、どのように結び付けていくか。

- ・「新しい実学」を学ぶ生徒の意欲を高めるためには、「新しい実学」を学ぶ場を充実させていくことが必要。
- ・学校等で学んだ「新しい実学」を、社会でどうやって生かしていくか（産学連携等）が重要。

日本の学校系統図

(出典：文部科学省ホームページ)



(注) (1) 〇部分は義務教育を示す。
 (2) *印は専攻科を示す。
 (3) 高等学校、中等教育学校後期課程、大学、短期大学、特別支援学校高等部には修業年限1年以上の別科を置くことができる。

新しい実学に関する学科の設置状況

1 新しい実学に関する学科を有する高等学校

区分	学校名	農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	芸術	体育	総合	専攻科	
県立	下田(南伊豆分校)	●										
	伊東商業			●								
	土肥			●								
	伊豆総合		●							●		
	田方農業	●										
	御殿場		●	●		●						
	裾野										●	
	沼津西								●			
	沼津工業		●									
	沼津商業			●								
	吉原工業		●									
	富士宮東						●					
	富士宮北			●								
	富岳館										●	
	清水南								●			
	科学技術		●									
	静岡農業	●										
	静岡商業			●								
	駿河総合										●	
	焼津水産				●							●
	藤枝北										●	
	島田工業			●								
	島田商業				●							
	清流館							●				
	相良				●							
	掛川工業			●								
	小笠										●	
	遠江総合										●	
	袋井商業			●								
	天竜	●									●	
	磐田北							●				
	磐田農業	●										
	磐田西			●								
浜松江之島								●				
浜松東			●									
浜松大平台										●		
浜松工業			●									
浜松城北工業			●									
浜松商業				●								
浜松湖北	●	●	●									
市立	富士市立			●					●			
	静岡市立清水桜が丘			●								
私立	知徳			●		●	●					
	飛龍		●									
	清水国際			●								
	城南静岡			●								
	静岡女子			●		●	●					
	焼津									●		
	静岡		●									
	藤枝順心					●		●				
	常葉学園菊川							●				
	浜松学芸							●				
	浜松修学舎			●			●					
浜松啓陽			●									
合計		6	12	21	1	4	6	6	1	10	1	

2 新しい実学に関する学科を有する高等専門学校

区分	学校名	農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	芸術	体育	総合	専攻科
国立	沼津工業		●								●
合計		0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

3 高等学校及び高等専門学校の募集定員の割合（全日制：平成27年度募集計画）（単位：人）

学科	普通科等	新しい実学に関する学科										合計
		農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	芸術	体育	総合	計	
定員	24,247	800	2,750	2,930	200	160	275	274	40	2,015	9,444	33,691

72.0%

28.0%

※出典：静岡県教育委員会、静岡県私学協会、沼津工業高等専門学校の発表を加工

※普通科等には、英語、理数、国際、その他を含む

4 高等学校卒業後の進路の状況（全日制：平成26年3月卒業者）（上段 単位：人）

学科	計	大学等 進学者	専修学校 専門課程 進学者	専修学校 一般課程 等入学者	公共職業 能力開発 施設等 入学者	就職者	一時的な 仕事に就 いた者	左記 以外の者	
普通科等	23,019	15,170	3,505	895	73	2,358	80	938	
		65.9%	15.2%	3.9%	0.3%	10.2%	0.3%	4.1%	
新しい実学に関する学科	農業	812	137	289	-	1	375	1	9
			16.9%	35.6%	-	0.1%	46.2%	0.1%	1.1%
	工業	2,360	428	275	71	28	1,532	-	26
			18.1%	11.7%	3.0%	1.2%	64.9%	-	1.1%
	商業	2,853	634	662	31	16	1,409	27	74
			22.2%	23.2%	1.1%	0.6%	49.4%	0.9%	2.6%
	水産	147	28	20	-	-	98	-	1
			19.0%	13.6%	-	-	66.7%	-	0.7%
	家庭	161	30	76	-	-	45	9	1
		18.6%	47.2%	-	-	28.0%	5.6%	0.6%	
福祉	220	41	70	-	-	97	7	5	
		18.6%	31.8%	-	-	44.1%	3.2%	2.3%	
総合	1,438	285	454	1	13	638	3	44	
		19.8%	31.6%	0.1%	0.9%	44.4%	0.2%	3.1%	
計	7,991	1,583	1,846	103	58	4,194	47	160	
		19.8%	23.1%	1.3%	0.7%	52.5%	0.6%	2.0%	
合計	31,010	16,753	5,351	998	131	6,552	127	1,098	
		54.0%	17.3%	3.2%	0.4%	21.1%	0.4%	3.5%	

※出典：平成26年度静岡県学校基本調査結果（調査日：平成26年5月1日）を加工

資料5

専修学校の設置状況

平成27年8月31日現在

区分	※ 専門 課程	学校名	農業	自動車	建築・ イン テリア	コン ピュ ータ 等	ビジ ネス 実務 等	観光 ・ 外国 語等	調理 ・ 製菓	理容 ・ 美容	ファッ ション 等	音楽 ・ 芸術 等	医療	その他
県立	●	東部看護専門学校											●	
	●	農林大学校	●											
公立	●	沼津市立看護専門学校											●	
	●	富士市立看護専門学校											●	
	●	静岡市立静岡看護専門学校											●	
	●	静岡市立清水看護専門学校											●	
	●	静岡県中部看護専門学校											●	
	●	島田市立看護専門学校											●	
	●	東海アクシス看護専門学校											●	
	●	浜松市立看護専門学校											●	
学校法人立	●	下田看護専門学校											●	
	●	国際ペットビジネス専門学校熱海校												●
	●	国際医療管理専門学校熱海校					●							
	●	国際観光専門学校熱海校						●						
	●	沼津情報・ビジネス専門学校				●						●		●
	●	静岡県東部総合美容専門学校								●				
	●	専門学校白寿医療学院											●	
	●	大原介護福祉専門学校沼津校												●
	●	大原公務員医療観光専門学校沼津校					●	●						
	●	中央歯科衛生士調理製菓専門学校								●			●	
	●	東海医療学園専門学校											●	
	●	東部福祉情報専門学校(休校)												●
	●	日本ギター専門学校(休校)										●		
	●	日本建築専門学校			●									
	●	日本書道芸術専門学校										●		
	●	富士コンピュータ専門学校				●			●					
	●	富士メカニック専門学校		●										
	●	富士リハビリテーション専門学校											●	
	●	富士宮高等専修学校				●	●							
	●	富士調理技術専門学校								●				
	●	プロスペラ学院ビジネス専門学校							●					
	●	国際ことば学院外国語専門学校							●					●
	●	駿河学院実務専門学校		●		●	●						●	
	●	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校											●	
	●	清水学院実務高等専修学校				●	●							
	●	静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校							●					
	●	静岡デザイン専門学校			●				●		●	●		●
	●	静岡医療学園専門学校											●	
	●	静岡県美容専門学校								●				
	●	静岡産業技術専門学校			●	●	●						●	●
	●	静岡福祉医療専門学校					●						●	●
	●	静進情報高等専修学校				●	●							
	●	専修学校静岡予備校早慶セミナー												●
	●	専門学校ノアデザインカレッジ												●
	●	専門学校静岡医療秘書学院						●						
	●	専門学校静岡工科自動車大学校		●										
	●	専門学校静岡電子情報カレッジ			●	●	●	●					●	●
	●	専門学校中央医療健康大学校											●	
	●	川口調理師専門学校								●				
	●	大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校静岡校							●					

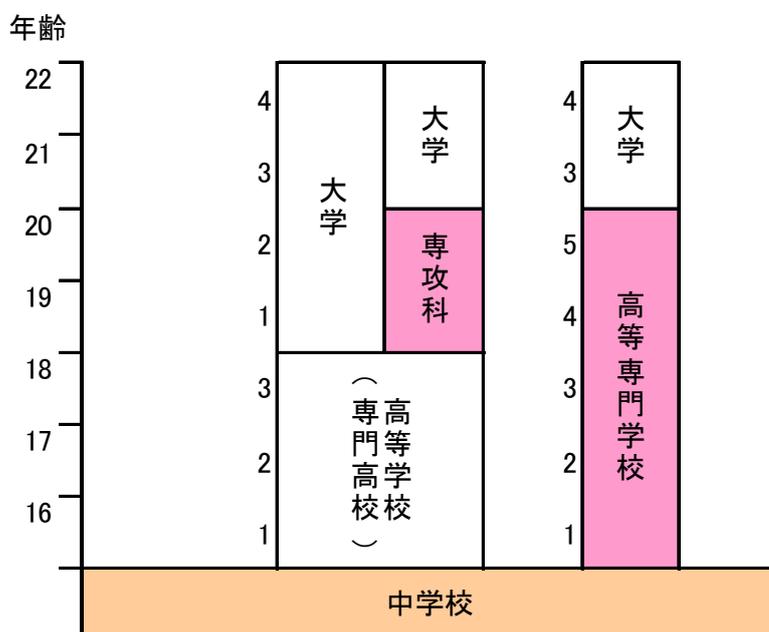
区分	※ 専門 課程	学校名	農業	自動車	建築 ・ イン テリア	コン ピュ ータ 等	ビジ ネス 実務 等	観光 ・ 外国 語等	調理 ・ 製菓	理容 ・ 美容	ファッ ション 等	音楽 ・ 芸術 等	医療	その他
学校法人立	●	大原簿記情報医療専門学校静岡校				●	●							
	●	大原法律公務員専門学校静岡校					●							
	●	中央調理製菓専門学校静岡校							●					
		島田実業高等専修学校					●							
		藤枝学院実務高等専修学校				●	●							
		専修学校河合塾浜松校												●
	●	オイスカ開発教育専門学校	●											
	●	デザインテクノロジー専門学校			●					●	●	●		
	●	国際医療管理専門学校浜松校					●							
	●	国際観光専門学校浜松校						●						
	●	静岡アルス美容専門学校								●				
	●	静岡県西部理容美容専門学校								●				
	●	静岡歯科衛生士専門学校											●	
	●	静岡新美容専門学校								●	●			
	●	専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー			●				●	●	●			
	●	専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー												●
	●	専門学校東海工科自動車大学校		●										
	●	専門学校浜松デザインカレッジ								●	●	●		
	●	専門学校浜松医療学院											●	●
	●	大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校							●					
	●	大原簿記情報医療専門学校浜松校						●						
	●	大原法律公務員専門学校浜松校						●						
	●	中遠調理師専門学校								●				
	●	東海こども専門学校												●
	●	東海調理製菓専門学校								●				
	●	東海福祉専門学校												●
●	東海文化専門学校									●			●	
●	浜松医療福祉専門学校											●	●	
●	浜松情報専門学校					●	●						●	
●	浜松日建工科専門学校				●									
その他の法人立	●	JA静岡厚生連するが看護専門学校											●	
	●	御殿場看護学校											●	
	●	静岡医療センター附属静岡看護学校											●	
	●	静岡済生会看護専門学校											●	
	●	静岡県厚生連看護専門学校											●	
	●	浜松市医師会看護高等専修学校											●	
	●	静岡医療科学専門学校											●	
	●	浜松歯科衛生士専門学校											●	
個人立	●	浜松調理菓子専門学校							●					
		興津家政専修学校									●			
	●	辻村和服専門学校									●			
		由比ドレスメーカー専修学校									●			
	●	タカヤマアドバンスビューティ専門学校								●				
●	土屋学園家政専門学校									●				
合計			2	4	7	11	18	12	7	10	10	9	31	17

※専門課程とは、高等学校卒業者、3年制の高等専修学校卒業者等が入学する課程
 なお、修業年限が2年以上等の要件を満たした専門課程の修了者は大学への編入学が可能

(参考) 高等学校専攻科と高等専門学校

	高等学校専攻科	高等専門学校
目的	精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導すること（主に看護、水産、農業、工業の専門教育分野の深化や社会人再教育）	深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること（主に工業、技術系の専門教育を施すことによる実践的技術者の養成）
設置手続	公立：県教育委員会の認可が必要 私立：知事の認可が必要	文部科学大臣の認可が必要
入学資格	高等学校卒業程度	中学校卒業程度
修業年限	1年以上	本科5年、専攻科2年
設置状況 (全国:H25)	134校 (公立69校、私立65校)	57校 (国立51校、公立3校、私立3校)
大学への編入学	可 (H28.4.1～)	可
学位等	なし (高校卒業)	準学士 (専攻科修了者は学士)
教員等		高校教員資格では、高専の教員になれず、教授等を確保する必要あり
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 一般の認知度が低いいため、応募者が少ない 大学、短大、専門学校に比べて、就職に不安な面がある 	<ul style="list-style-type: none"> 高校の高専化には、高校を廃止し、改めて高専設置の大臣認可が必要 認可基準が極めて厳しい <ul style="list-style-type: none"> ①研究室を設けなければならない ②高校と比べて多くの教員を確保しなければならない

(イメージ図)



新しい実学の奨励等に関する県の計画における位置付け

1 静岡県総合計画後期アクションプランでの位置付け

○多彩な人材を生む学びの場づくり

(狙い) “ふじのくに”の礎は人材の育成にあり、地域社会の新たな創造的発展を支えていくためには、人々の個性や能力を伸長し、心の豊かさや人間力を高めていくことが求められている。

(方向) 次代を担う子どもたちが、良好な人格形成と確かな学力を育むよう、静岡式35人学級編制等を活かした「確かな学力」の育成に取り組むとともに、高校と大学の連携・接続の促進を通じてグローバルに活躍する人材や農業、工業、商業、芸術、スポーツなどの専門性の高い人材の育成を図るなど、“ふじのくに”の未来を担う「有徳の人」づくりに向けた教育改革を実践していく。また、誰もが感動し刺激を受けるとともに、地域に根ざした文学や地域学を創出することで、郷土愛や地域に対する誇りを養っていく。

○教育内容の充実

- ・ 社会的、職業的意識を高めるため、地域や産業界との連携を強化し、学校教育の各段階においてキャリア教育の充実を図るとともに、職業教育等の実学を奨励し、「職業講話・職場見学・職場体験・就業体験」、「各学校におけるキャリア教育の体系化」を推進する。
- ・ 将来の地域の産業を担う専門的職業人を育成するため、専門高校等において、学科の特性を生かした教育を推進するとともに、産業教育施設・設備の充実を図る。

○特色ある学校づくりの推進

- ・ 地域の期待に応える、特色ある県立学校づくりを推進するため、生徒及び社会のニーズを踏まえ、新たな学科の設置や学科改善等に努める。

○高校と大学の連携・接続の強化に向けた取組の促進

- ・ 高度な職業人や、多様な分野で社会や地域をリードする人材を育成するため、高校と大学との連携・接続の強化を推進しながら、農業、工業、商業、芸術、スポーツなど「新しい実学」の奨励に向けた取組を促進する。

○豊かな自然環境を生かした世界的な観光交流機能の強化

- ・ 地域を理解し、地域に貢献する人材を育成するため、富士山や伊豆半島ジオパークなど地域の自然、文化、産業等の特色を生かした地域学習や環境学習を推進する。

2 静岡県教育振興基本計画第2期計画（有徳の人づくりAP）での位置付け

○キャリア教育の推進

- ・ 地域の特色やライフステージに応じ、望ましい勤労観・職業観を育む教育や職業教育等、学校・地域・企業等が連携したキャリア教育推進に努めます。

【主な取組】

職場見学・職場体験・就業体験の促進

地域や産業界との連携強化の促進
キャリア教育実践研修の実施
こころざし育成セミナーの実施
日本の次世代リーダー育成研修の実施

- ものづくり立県を支えていくため、ライフステージに応じてものづくりの楽しさや技能の大切さを教えていくとともに、専門高校の施設を利用した職業教育を推進するなど、ものづくりや技能に触れる機会を提供します。また、高校生ものづくりコンテスト等の大会を支援します。

【主な取組】

ものづくり・技能に触れる機会の充実
WAZAチャレンジ教室の実施
技能マイスターの活用

○魅力ある学校づくり

- 児童生徒の実態や地域社会の実情に応じた学校づくり、専門学科・総合学科・単位制高等学校及び定時制・通信制課程の充実や新たな学科の設置及び学科改善等に努め、特色ある学校づくりを推進します。

【主な取組】

富士山をはじめとする自然・文化等を活用した学習の推進
「静岡県立高等学校第二次長期計画」の推進
県立高等学校における新たな学科の設置や学科改善の実施
高等学校における特色ある教育課程の編成の研究
公立中高一貫教育における成果や課題の検証と改善
グランドデザイン(学校経営構想図)や学校経営計画書の活用促進
教職員の希望表明制度の活用
産業教育設備等の更新・充実
特色ある学校づくりの取組に対するインセンティブ付与を含めた予算配分の見直し

○高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元

- 県内大学の教育・研究力の向上や地域社会の発展への貢献、高度な学術研究の促進を図るため、大学間及び大学・地域間との連携組織であるふじのくに地域・大学コンソーシアムの運営を支援し、共同公開講座や中・高校生を対象とした講座の開催や学術研究助成など、教育・研究成果を地域に還元するとともに、本県ならではの新たな地域学の創設など他の地域にない「魅力あふれる学び」を展開します。また、優れた研究成果を発表する機会を創出するため、県内の大学等との協働による国際的な学術フォーラムを開催します。

【主な取組】

ふじのくに地域・大学コンソーシアムの運営の支援
共同公開講座やシンポジウムの開催支援
高等教育機関の教育・研究成果の地域への還元
国際的な学術フォーラムの開催富士山をはじめとする自然・文化等を活用した学習の推進

新しい実学の奨励に関するこれまでの取組

1 本県の取組

事業名	内容	
職業教育に関する知事褒賞の授与 (H24～実施中)	次代の本県一次産業やものづくり産業を担う若者の励みとするとともに、実学系教育機関が脚光を浴びるきっかけとするために、県内の職業教育を主とする高等学校、農林大学校等の生徒・学生等のうち、特に学業・技能・態度・行動が優秀で、他の模範となる業績を残した者に対して知事褒賞を授与する。	
実学推進フロンティア事業 (H26～実施中)	社会の変化に、柔軟に、かつ主体的に対応できる能力と、産業界で必要となる高度な知識・技能を身につけ、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する。	
「大地に学ぶ」農業体験推進事業	遊休農地を活用した農業体験活動、農業体験推進校への援助	
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業	企業や大学と連携した先進的研究等の実施	
エネルギー関連教育充実事業	エネルギー・環境に係る諸問題に対応できる工業技術者を育成するために必要となる設備の整備等	
高校教育民間活力の導入	産業界から県立高校への特別教諭の招聘	
高校生アカデミックチャレンジ（高大連携推進）事業 (H26～実施中)	理数科や職業系専門学科等を設置する高校と大学との連携を一層強化し、高校生に高度な学問の一端に触れたり、研究体験や活動を行ったりする機会を提供することにより、全県から専門分野で卓越した資質を有する生徒を発掘し、その意欲・能力を伸張することで、高校在学時から専門性を有し国際科学オリンピックや学会発表等で活躍する人材育成を推進する。	
オリンピックチャレンジ (自然)	理数を学ぶ高校1、2年生を対象に、国際科学オリンピック等への参加を促し、4日間の講習会等を実施することにより参加者を支援する。	
イノベーションチャレンジ (産業)	専門学科、総合学科に学ぶ高校1、2年生を対象に、学会等の研究発表等を促し、4日間の学習会や現地調査を実施することにより参加者を支援する。	
チャレンジラボ	理数分野 (自然)	昨年度のオリンピックチャレンジの参加者から優先的に選抜し、4日間の大学での研究活動を大学院生等とともに行う。
	実学分野 (産業)	イノベーションチャレンジの参加者から2年生5人を選抜し、4日間の大学での研究活動を大学院生等とともに行う。
私立専修学校運営費助成 (S53～実施中)	私立専修学校の教育条件の整備と教育内容の充実を図るため、教育研究経費・管理経費に対し助成する。	
静岡県産業教育フェア (H5～H13)	専門高校の紹介と進学を促すために、専門高校が展示や展示販売などを行う。	

2 国の取組

事業名	内容
東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業 (H24～実施中)	被災地の産業・資源を活かした専門高校における人材育成プログラムの研究開発を実施。
専修学校（専門課程）の職業実践専門課程の認定 (H25～実施中)	専修学校（専門課程）における職業教育の水準の維持向上を図るため、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを「職業実践専門課程」として認定し、奨励。
目指せスペシャリスト (スーパー専門高校) (H15～H23)	バイオテクノロジーなど先端的な技術・技能等を取り入れた教育や伝統的な産業に関する学習活動を重点的に行っている専門高校を指定し、カリキュラムや大学等との連携方策について研究開発を実施。
地域産業の担い手育成プロジェクト (H19～H22)	専門高校と地域産業界の連携方策等について地域ぐるみで検討する委員会を設けた上で、生徒の企業実習や企業技術者による学校での実践的指導、教員の高度技術習得、専門高校と企業の共同研究等を盛り込んだ、地域産業の担い手の育成プログラムを開発。
専門高校と小・中学校との連携推進事業 (H13・14)	ものづくりなどへの意欲、関心を高めることなどを目的として、専門高校の生徒の指導のもと、小・中学生がものづくりなどの体験学習を実施するなど、専門高校と小・中学校との連携によるものづくりなどに関する教育の推進について実践的な調査研究を実施。
みんなの専門高校プロジェクト (H15～H18)	
農業高校と農業大学の連携推進事業 (H14・15)	農産物の生産に対する知識・技術や農業経営に必要な経営管理能力等を5年間一貫した教育により修得させるため、農業高校と農業大学との継続的なカリキュラムのあり方等について検討。
ものづくり学習振興支援事業 (H12～H17)	小・中・高等学校等におけるものづくりに関する学習の振興を図るため、ものづくり教育関係者による支援体制の整備、「ものづくり学習指導者」のデータベースの構築、「ものづくり学習指導者」のための研修会の実施等を内容とするモデル事業を実施。
高等学校の専門教育に関する教育用コンテンツの開発 (H14・15)	民間企業のみでは開発が進まないと考えられる高等学校の専門教育に関する各教科（「農業」、「工業」、「商業」、「水産」、「家庭」、「看護」、「情報」、「福祉」）のコンテンツを開発。
専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業 (H16～H19)	企業実習と教育を組み合わせた人材育成システムである「日本版デュアルシステム」（実務・教育連携型人材育成システム）について、その効果的な導入方法を探るためのモデル事業を実施。

地域学に関する取組

事業名	内容
次代を担う人材育成事業 (「地域学」推進事業)	<p>地域を理解し、地域に貢献する人材を育成するため、伊豆ジオパーク、富士山、浜名湖等、学校周辺地域の特色を生かした学習活動を推進する。</p> <p>(1) 指定校</p> <p>ア 伊豆半島ジオパーク (県立伊豆総合高校、県立松崎高校)</p> <p>イ 富士山 (県立裾野高校)</p> <p>ウ 学校周辺地域 (県立天竜高校春野校舎)</p> <p>(2) 指定校の取組</p> <p>ア 授業、特別活動等 地域の魅力の再確認と発掘</p> <p>イ 大学、研究施設との連携 大学の教員や研究者による講義、実験及びフィールドワークによる学術的な学び</p> <p>ウ 部活動、生徒会等 地域の魅力を広報する方法の検討、教材等の開発</p>
共同公開講座開催事業 (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの委託事業)	<p>学術・研究成果の積極的な地域還元を図るとともに、異なる大学の研究者や学生とのコミュニケーション、大学と地域との共同の場の創生の機会を創出するため、静岡県の地域資源を活かし、静岡県の魅力発信に繋がる研究内容をテーマとした、大学間又は大学と地域との連携による講座を開催する。</p>
高校等出張講座事業 (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの補助事業)	<p>大学等の教員が県内の中学校及び高等学校へ出張し、静岡県に関するテーマ等により講義を行う。</p>
短期集中単位互換事業 (ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの補助事業)	<p>本県の地域資源に関するテーマにより単位互換を前提とする宿泊型の短期集中共同授業を実施する。平成27年度は、平成26年度と同様に富士山に関するフィールドワークを含む集中講義を行う。また、次年度以降の事業拡大のため、単位互換協定校の募集や講座開設の準備を行う。</p>
ふじのくに学共同研究事業 (ふじのくに地域・大学コンソーシアムの自主事業)	<p>静岡県の地域資源に光を当て、自然科学と人文社会科学の全てを包括し、世界との比較の中で静岡県の特長を明らかにする、学際的・国際的な新たな地域学(ふじのくに学)を創設するための取組を行う。また、その研究成果を活用し、大学カリキュラム化や一般県民への公開講座を通じた還元等を行う。</p>

<p>ふじのくに地球環境史ミュージアム整備事業 (H27.4 開設、 H28.3 一般公開予定)</p>	<p>○ミュージアムの基本理念 ふじのくにの地域学の創造と人・交流・連携が導く知の拠点づくり</p> <p>(1) “ふじのくに”固有の自然の探求と自然史資料の保管・継承、活用</p> <p>(2) 富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくりの礎となる自然から環境分野に広がる領域の新たな地域学の創造</p> <p>(3) “ふじのくに”の未来を育む「有徳の人づくり」の推進</p>
<p>富士山世界遺産センター (仮称) 整備事業</p>	<p>○基本コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターは、4つの基本コンセプト（永く「守る」、楽しく「伝える」、広く「交わる」、深く「究める」）のもと、富士山関連施設等と連携・協働して事業活動を展開していく。 ・山梨県や関係市町等と連携し、環富士山で来訪者を受け入れる体制を構築する。 ・調査研究活動の推進については、ムセイオン静岡、大学コンソーシアム等と連携を図り、学際的、国際的、総合的な調査研究を進める。

「実学」の基盤となる小中学校における地域学習について

1 地域学習に関連する取組の実施状況（政令市を除く）

内容	小学校	中学校
(1) 総合的な学習の時間において地域を題材等としている	94.0%	75.0%
(2) 自然体験学習	96.9%	88.4%
(3) 野外体験学習	92.8%	66.3%
(4) 社会貢献（奉仕）活動	90.4%	96.5%
(5) 社会体験活動（社会見学・職場体験等）	96.6%	100.0%
(6) 職場見学	63.2%	54.4%
(7) 職場体験	16.5%	98.8%
(8) 職業講話	52.0%	86.0%
(9) 職業講話における地域の職業人の活用	71.7%	73.6%

※(1)は、静東管内と静西管内の合計。なお、静東管内は26年度、静西管内は27年度データのため参考数値となる。

※(2)～(9)は平成26年度末有徳の人アクションプラン実施状況調査による。

- ・小中学校ともに、総合的な学習の時間、キャリア教育、特別活動等、何らかの形で地域と関わりを持った教育を行っている。小中学校における体験的な学習は地域の人的・物的環境によって成り立っている。
- ・例えば、小学校3年生の社会科は「地域」がテーマになっているので、地元の商店街等について学習する。小学校5年生の社会科では、地域にある工場見学等を行う。また、お米やお茶を題材にした小学校における総合的な学習の時間は地元の農家の協力なしでは実施できない。このように実学の基盤となるような小中学校における地域学習（地域に対する興味関心を高める取組、地域の人的・物的な財を扱った取組等）は根付いた実践として定着している。

【参考資料】

- ・小学校 総合的な学習の時間 小学校3～6年 各70時間（週2時間）
- ・中学校 総合的な学習の時間 中学校1年 50時間（週1.4時間）
中学校2・3年 各70時間（週2時間）

2 具体的な実践事例

(1) 地元地域をテーマにした総合的な学習の時間

掛川市立東中学校では、キャリア教育を組み込み、地元を学び、地元で働き、地域の将来について提案していくといった3年間を系統的に捉えた総合的な学習の時間「掛川学」に取り組んでいる。

1年「掛川を知る」 2年「掛川で働く」 3年「掛川を考える」

(2) 富士宮市立小中学校総合的な学習の時間「富士山学習」

富士宮市内の小中学校は、総合的な学習の時間を「富士山学習」と呼び、それぞれの地域の実態に則した地域題材を扱って総合的な学習の時間を進めている。

(3) 菊川市のキャリア教育

菊川市では、地元企業が中学校の体育館等でブース形式で説明を行うといったキャリア学習を行っており、地元で働くよさだけではなく、地元そのもののよさに気づき、ふるさと志向力を育むキャリア教育を実践している。

(4) 地域を扱った教材づくり

郷土の偉人を扱った冊子を作成している市町がある。掛川市では、郷土の偉人を扱った道徳の副読本「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」を作成しており、郷土の偉人を扱った資料で道徳の授業実践を行っている。

静岡県の産業・経済を担う人材育成のための 全国初の公立商業高等専門学校の設立

1 提案内容

将来の静岡県の産業、経済を担う人材を育成するため、全国初の公立商業高等専門学校を設立する。

運営に当たっては、インターンシップの受入れやキャリア教育における講師派遣等について、地域企業の支援を仰ぐ。

2 育成する人材像

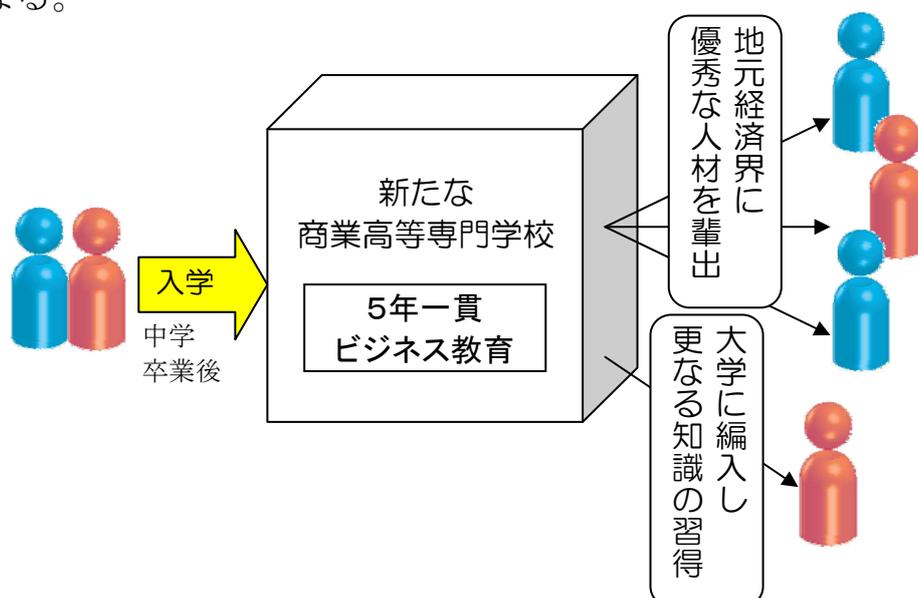
- ・ 将来の地域の産業、経済を担う人材
- ・ タフでグローバル感覚を持ち、郷土を愛する静岡商人

3 実施する教育（中学卒業後の5年一貫教育）

- ・ 地域産業の経営者を育てる実業教育
- ・ 商業、経営などビジネスに関する専門教育
- ・ 実践的なIT技術やマーケティング戦略を習得する教育
- ・ アジア太平洋地域を中心とした地域産業のグローバル展開に必要な語学や国際感覚を養成する教育
- ・ 地域産業の後継者を育成するための教育

4 設立のメリット

- ・ 5年一貫教育により、大学入試に煩わされず、専門的知識、技能を持った実業人を育成できる。
- ・ さらに高度な知識や技能を習得したい者は、大学3年次編入が可能となる。



※本案は、袋井商工会議所からの提案を基に作成した。